

024

「災害時×甘いもの」の エピソードを集めて企画した、 こころ咲く BOUSAIBOX

取組主体

有限会社西谷

従業員数

10人

想定災害

全般

実施地域

山形県

- SNS で集まった被災者の声をもとに、「甘い非常食」だけの防災ボックスを開発、販売。食欲がなくても食べられるようにのど越しの良さを重視し、本棚に収納できるデザインにするなど普段から親しまれる工夫をしている。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

SNS で集まった被災者の声から「甘い非常食」を選定

- 創業以来、日用品や防災・消防用品の販売等を行ってきた有限会社西谷は、「東北の企業として、東日本大震災の経験や想いを次につなげたい」との想いから、令和2年3月から子育て世代の悩みや不安に向き合い続ける防災ボックスの企画・開発等の取組を強化してきた。
- 東日本大震災から10年目となる令和3年3月11日には、SNSを通して集まった被災者の声をもとに企画・開発を進めた、パン・ゼリー・ようかん・クッキー等の5年保存可能な「甘い非常食」を同梱した「こころ咲く BOUSAIBOX」の発売を開始した。
- SNSで「災害時の甘いものに関するエピソード」を問いかけたところ、甘いものは災害時に体への栄養補給だけでなく、心への栄養補給にもなることが分かった。「ただ甘い」だけではなく、食欲も気力も落ちている中で、食べやすさや飲み込みやすさを重視して商品を選定した。
- 災害時に「ピンクやイエロー等の明るい色を見て心が晴れた」という声から、デザインにもこだわっている。いつも使ってほしいので、緊急用や災害用との記載を一切せず、本棚収納が可能なおしゃれなデザインにしている。



こころ咲く BOUSAIBOX



本棚収納できるデザイン

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 「非常食をいつも飯にしよう」をテーマに、年5回ほど同社防災展示スペースにて ENJOYBOUSAI という防災イベントを開催している。イベントには防災士・消防設備士が常駐し、災害への備えや商品の説明を行っている。
- Instagram や Twitter を活用して、非常食のアレンジレシピや美味しいポイントを紹介している。

3 現状の課題・今後の展開等

- 東日本大震災から11年目となる令和4年3月11日には、「災害時×野菜をテーマにした「いつもともしも やさぼうさい」を発売した。SNSで被災者の声を集めたところ、いつも不足しがちな野菜は、やはり災害時にも不足することが分かったためである。今後も災害時の悩みや不安の1つ1つに、真摯に向き合っていきたいと決意している。

担当者の声

- お腹を満たすことは大切、でも災害時に心を満たすことも大切だと感じています。購入者の皆様が、「こころ咲く BOUSAIBOX」の蓋をどのような状況で開くのかは現時点ではわかりません。けれども、どのような時でも「心に花が咲いてほしい。希望を持ってほしい。」という想いを込めて作りました。この想いが1人でも多くの方々に届くことが、私たちの願いです。

問合せ先

有限会社西谷 法人番号：1390002002062
TEL：023-622-5677 FAX：023-633-3506 E-Mail：yuri@nishiya-eco.jp

サイトURL

